

北海道・^{さるふつ}猿払村

ホタテ稚貝放流事業による 村の再生

我が国では、現在、人口減少・高齢化に加え東京一極集中がますます進行しており、また、市町村別に一人当たり所得を比較すると上位 10 位のうち 7 つの自治体を東京都内の特別区が占めるなど、都市と地方の経済的な格差も大きくなっている（図表 1）。

しかし、このような中で、北海道の猿払（さるふつ）村は、地方にありながら、一人当たり所得が 4 位となっており、本稿では、猿払村の現状と課題等について、考えてみることにしたい。

（猿払村の概要）

猿払村は、北海道の最北部にあり、東はオホーツク海に面し、北は稚内市に隣接している。人口は、平成 29 年 1 月 1 日現在（総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」）2,737 人である。

また、猿払村は、日本を代表するホタテの産地であり、漁業（特にホタテ漁）が村の主要産業となっている。平成 28 年の漁業生産額は、119 億 9,000 万円（うち、ホタテが 108 億 3,000 万円）（北海道庁「北海道水産現勢」）である。ホタテ漁の管理等は

猿払村漁協が行っているが、同漁協の会員は、平成 28 年度末で約 240 名であり（同漁協ホームページ）、単純計算すると、一人当たり約 4,500 万円の売上げがあることになる。村内にはホタテの加工施設も設けられ、ホタテは冷凍貝柱や干し貝柱等に加工されている。干し貝柱は高級食材として、香港などへ輸出されている。

（水産資源の激減等による村の衰退と、ホタテ稚貝放流事業による村の再生）

猿払村は、現在では全国的に見ても高額の一人当たり所得を稼ぎ出しているが、常に順風満帆であったわけではない。村の歴史を見ると、猿払村は、大正 13 年の発足以来、水産資源に恵まれ、にしん漁やホタテ漁が盛んであったが、昭和 30 年代になると、にしんやホタテの漁獲量が激減し、さらに、昭和 40 年代には、村内にあった炭鉱が次々閉山に追い込まれるなど、村内産業が著しく停滞することとなった。村を離れる人も増え、当時は、「貧乏見たけりや猿払へ行きな」と言われる

図表 1 市町村別一人当たり所得（上位 10 位）

自治体	所得(万円)
東京都港区	1,112
東京都千代田区	916
東京都渋谷区	773
北海道猿払村	693
兵庫県芦屋市	632
東京都中央区	618
東京都文京区	587
東京都目黒区	585
山梨県忍野村	547
東京都世田谷区	545

（注）一人当たり所得とは、納税者一人当たりの市町村税課税対象所得である。

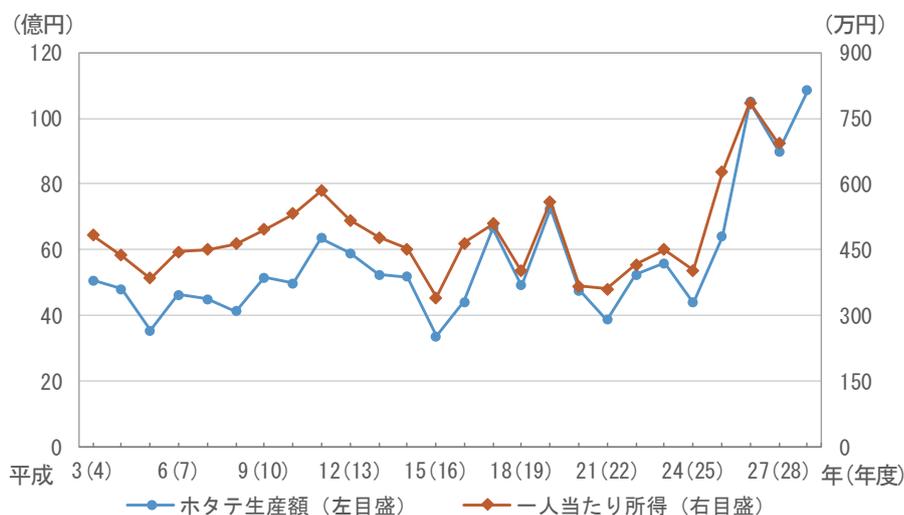
（出所）総務省「平成 28 年度 市町村税課税状況等の調」より作成

ほど、危機的な状況であったという。

そのような苦境の中、昭和46年に日本で初めての試みとして始められたのは、猿払村漁協によるホタテの稚貝大規模放流事業であった。これは、ホタテの種苗を1年間海中で育て、3～5cmの稚貝になったところで海に放流するものである。稚貝は4年間で10～13cmに成長したところで採集され、水揚げされる。猿払村は、当時は資金面でも困難がある中で稚貝放流事業を続け、「とる漁業」から「育てる漁業」への転換を図った結果、村の漁業を再生させることに成功した。

その後、猿払村のホタテ漁は、年によって生産額に変動はあるものの、順調に続けられている。特にここ数年、生産額は100億円前後で推移しており、そのようなホタテ漁の収入が村民の所得を平均的に押し上げ、一人当たりの市町村税課税対象所得も大きくしていることが推測される（図表2参照）。

図表2 猿払村におけるホタテ生産額と一人当たり所得の推移



(注) 1. 一人当たり所得は、納税者一人当たりの市町村住民税課税対象所得である（図表1と同じ）。
 2. グラフ下軸の「年」はホタテ生産額、「年度」は一人当たり所得に対応する。市町村住民税は、前年の所得が課税の対象であるため、ホタテ生産の収入に対する課税は、その翌年度に行われることになる。
 3. ホタテの卸売価格は変動するため、ホタテの生産額とホタテの生産量は必ずしも比例しない。なお、近年は、ホタテの輸出量が増加し、ホタテの卸売価格は高騰している。
 (出所) マリンネット北海道（北海道立総合研究機構 水産研究本部）「マリンネット北海道データベース検索」、総務省「市町村税課税状況等の調」より作成

(今後の課題)

猿払村は、かつての危機を克服し、ホタテの稚貝放流事業により再生に成功した村として、他地域の振興策を考えるうえで参考になる点も多いであろう。ただし、猿払村でも、中長期的に見ると人口減・高齢化が緩やかに進行しており、将来的に村の活力が維持できるかどうか懸念もある。

今後は、村に人を呼び込むためにも、新商品の開発など、ホタテの高付加価値化等による収益力の増強等に取り組み（なお、猿払村では酪農も行われており、平成27年の畜産業生産額は44億4,000万円である（農林水産省「市町村別農業生産額（推計）」）、猿払村の魅力を更に高めていくことが求められよう。

(調査情報担当室 前田泰伸 内線 75044)